



平成 29 年 5 月 25 日

## 古典がひらく〈知〉の扉／新たな高大連携への挑戦 — 動画教材の開発と主体的な学びを促進する授業実践 —

岡山大学教育開発センター学習環境ラボと岡山大学文学部は、岡山県高等学校教育研究会国語部会と協働して、高等学校の古典の授業で活用する動画教材を作成し、動画視聴とグループワークを中心とした授業を実践しました。

授業は 2017 年 1、2 月に、岡山県立倉敷南高等学校、岡山県立西大寺高等学校、岡山県立岡山一宮高等学校の 1 年次（計 681 人）と 2 年次（計 557 人）を対象に実施。生徒からは古典を自分の生き方や問題として捉える前向きな姿勢や、積極的に授業に取り組む様子が見られ、今後の新たな高大連携のあり方を考える大きな一歩を踏み出しました。

### <概要>

現在、大学などが広く学知を公開する方法として、MOOC（オンラインで公開された無料の講座を受講し、修了条件を満たすと修了証が取得できる教育サービス）を活用した動画の作成や公開などの取り組みが注目されています。一方、高等学校の授業では、アクティブラーニングや反転学習（事前に動画などで授業の予習しておくこと）を促すツールの必要性、また、探求型学習の深化が求められています。

本事業はこうした現状を踏まえ、岡山県内の高等学校の教員と協働し、高等学校の授業に役立つ動画教材を作成することで、高等学校の授業における課題の解決、本学の持つ学知と教育力の社会的活用、新しい高大連携のあり方を提案するものです。

### 1. 目的

- ①現場での教材開発の負担軽減、大学入試のアンマッチを解消するために、大学での研究を、高校生が日常空間で（大学に行かなくても）体験する。
- ②岡山県での新指導要領を見越した教材開発を岡山大学が支援し、高大接続プログラムの新しいあり方を岡山から提案する。

### 2. 動画教材の名称：古典がひらく〈知〉の扉

1 年次：平家物語「木曾の最期—生きるということ—」（1 回 10 分、全 4 回）

2 年次：平家物語「忠度の都落ち—生きる意味を問う—」（1 回 10 分、全 4 回）

### 3. 実施内容

#### ①動画作成

2016 年 8～12 月にかけて大崎理乃・本学高等教育開発推進機構/学習環境ラボ助教（現産業技術大学院大学助教）が動画を活用した授業コンテンツの全体像、授業設計などをプロ



## PRESS RELEASE

デュース。本学教育開発センター学習環境ラボ・本学文学部の教員と授業を実践する高等学校の教諭が議論して動画内容を検討し、(1)古典の教科書に登場する「平家物語」の「木曾の最期」「忠度の都落ち」を題材として、(2)大学の学問的視点からその題材を掘り下げ、視聴者に問いかけを行う動画教材を、(3)各生徒は授業開始時に、あるいは予習として事前に自宅等で視聴した上で、(4)動画内の問いかけを下敷きに、必要に応じてディスカッションも織り交ぜながらその題材の内容を読み込んでいく授業を展開する、という形態で動画教材を活用することに決定。

この検討結果をもとに、長瀧寛之・教育開発センター/学習環境ラボ准教授と本村昌文・大学院社会文化科学研究科准教授とが2016年12月～2017年1月にかけて動画教材を作成。

### ②授業

2017年1月～2月の間、倉敷南高等学校1年次・320人／2年次・320人、岡山一宮高等学校1年次・361人、西大寺高等学校2年次・237人を対象に動画を活用した授業を各高等学校の教諭が実施。授業では、普段は発言をしない生徒が前向きに授業に取り組み、積極的に発言する様子などが見られました。さらに生徒からは、古典を単なる古い文章ではなく、自分の生き方やさまざまな問題を考える素材として捉えられた、古典を学ぶことへの興味関心が高まったという意見が多く寄せられ、大学の動画教材から高校の授業へ密接に接続する授業への関心の高さも確認できました。

### 4. 今後の展開

昨年度の動画作成、授業実践の成果と課題を踏まえ、本学大学教育開発センター学習環境ラボ、文学部の関係教員、岡山県高等学校教育研究会国語部会（部会長・三谷昌士）が中心となり、今年度も新しい動画教材の作成、授業実践を行う予定です。

#### <お問い合わせ>

岡山大学教育開発センター学習環境ラボ  
准教授 長瀧 寛之

(電話番号) 086-251-7257

(FAX番号) 同上

(メール) nagataki@cc.okayama-u.ac.jp

岡山大学大学院社会文化科学研究科(文)  
教授・文学部長補佐 本村 昌文

(電話番号) 086-251-7395

(メール) tomtom@okayama-u.ac.jp